

ニート期間と基礎的スキルの苦手意識との関係を見ると、かならずしもニート期間の長いグループにおいて基礎的苦手意識が目立つという関係は見られない。

また、「仕事を覚える」「仕事で失敗をくりかえさない」「教えてもらわなくても周囲のやり方を見て仕事を覚える」等仕事に関して苦手意識を持つ者も多い。

Q16 基礎的スキルの苦手意識	
字を読むのが得意	19.1
字を書くのが得意	35.6
計算をするのが得意	42.8
手先が不器用	47.6
人に話すのが得意	64.4
人の話を聞くのが得意	34.7

Q17 生活行動の苦手意識		難しい	やや難しい	合計
働く意欲をもつ	11.7	36.6	48.3	
外出する	2.6	17.0	19.6	
知らない人に話しかける	24.2	35.4	59.6	
早寝早起きをする	16.5	35.6	52.1	
近所の人にあいさつをする	13.6	30.4	44.0	
パソコンや携帯電話でメールする	21.7	15.3	37.0	
履歴書を書く	17.9	34.7	52.6	
ハローワークに行く	14.1	28.9	43.0	
面接の申し込みの電話をする	28.0	33.5	61.5	
面接に行く	31.6	29.2	60.8	
面接で質問に答える	28.7	36.1	64.8	
面接に通る	41.6	33.5	75.1	
仕事を覚える	21.1	36.1	57.2	
仕事で失敗をくりかえさない	20.8	39.0	59.8	
上司から信頼される	23.0	41.1	64.1	
同僚とうまくやる	22.2	36.1	58.3	
教えてもらわなくても周囲の やりかたを見て仕事を覚える	24.6	35.6	60.2	
職場で友達をつくる	25.8	38.8	64.6	
注意を素直に聞く	8.4	23.4	31.8	
失敗したら自分からあやまる	5.5	17.7	23.2	
わからないことを質問する	13.2	31.1	44.3	
忙しい時に手伝ってもらう	16.0	42.3	58.3	
遅刻せずに通勤する	9.3	18.9	28.2	
人から好感をもってもらう	20.1	37.3	57.4	
人のアドバイスを素直に聞く	6.9	23.2	30.1	

## 9. ニートの状態にある若者の生活意識面の特性

29項目を挙げて一般的な生活意識、生活価値観を尋ねた。「そう思う」「ややそう思う」を合計した肯定的反応が80%を超える項目は、「仕事をしていないとうしろめたい」82.8%、「社会や人から感謝される仕事がしたい」82.5%、「仕事をしていくうえで人間関係に不安を感じる」80.9%、「どこでも通用する専門技能を身につけたい」80.4%であった。80%前後がニート状態であることを「うしろめたい」「世間体が悪い」と感じており、ニート状態にあることが精神的な負担になっていることがうかがえる。

29項目中23項目について2006年4月の新入社員の数値と比較した。差が大きかった項目は「職場の同僚、上司、部下などとは勤務時間以外はつきあいたくない」「仕事はお金を稼ぐための手段であって、面白いものではない」(以上、新入社員より多かった項目)、「自分はいい時代に生れた」「世の中は、いろいろな面で今よりもよくなっていくだろう」「明るい気持で積極的に行動すれば、たいていのことは達成できる」(以上新入社員より少なかった項目)。新入社員との比較においてニートの状態にある若者の意識面の特性は、「将来に希望がもてない」「対人関係の苦手意識」「仕事に多くを期待しない」ことに要約されるだろう。